町立金山診療所からのお知らせ

【お問い合わせ】
町立金山診療所　☎52-2915

３月末をもって２名の医師が退任され、４月１日付けで新たに１名の医師が着任されました。
これからも皆様に信頼される診療所であるために、安心・安全な医療の提供に努めていきます。

平成31年３月末をもって派遣終了

副所長　瀬尾 恭一（きょういち） 氏

「サクラマスの法則」

サクラマスをご存じでしょうか。美しい銀色のボディ、体長40cmを超える大型の魚であり、釣り人にとっては憧れの魚で、ちょうどこの時期（早春）、海から河川を遡上します。実はこの魚、元は『ヤマメ』です。日本の渓流に棲息するポピュラーな小型魚、誰もが知っているあのヤマメです。あの小さなヤマメが河川を下り、大海原で修羅場をくぐり抜け、身も心も大きくなって再び河川に戻ってきた姿――。それこそがサクラマスの正体です。渓流を泳ぐヤマメは、成長の過程でふと考え始めます。「私たちこれからどうしようか」と。大半のヤマメは「この場所でこのまま暮らしていこう」と思って河川を出ません。しかし、一部のヤマメは思います。「このままでは駄目だ、私たちには何か足りない」と。そして命がけで河川を下り、大海原に出ます。大海原ではまさに食うか食われるかの生活。魚として一回りも二回りも大きくなります。そしてついに決断します。「私を育てたあの場所に戻ろう」と。そして再び河川を上ります。これが私の考える「サクラマスの法則」です。

僻地では「医者の定着」を課題としている地域があります。一人でも多くの医者が地域に根付いて欲しいと願うのは当然でしょう。しかし、若手を悩ませる言葉があります。「先生にはずっとこの地域にいて残って欲しい」という患者さんからの言葉。自分が頼りにされている事を幸せに思う反面、プレッシャーを感じる若手は少なくありません。特に、僻地に「残る」という表現に、なんだか「生け贄」みたいな印象を持つのは私だけでは無いはずです。だからこそ、あえてここで「サクラマスの法則」を思い起こしていただきたいです。ずっととどまって欲しい気持ちをぐっと飲み込み、僻地から巣立ってゆく若手を応援していただけないでしょうか。そうすれば、きっといつかサクラマスのように、一回りも二回りも大きくなって帰ってきます。実際、自治医大卒業生の多くは僻地を離れた後でもまたいつか力になりたいと思っています。

そう簡単にはいかない、実際に戻ってきたためしがない、などと言われるとちょっと困ってしまいますが、サクラマスの話にはもう一つの余談があります。実は、海に下るサクラマスはメスだけなのです。オスは渓流でずっとメスの帰りを待っています。海から帰ってきたメスと、ずっと渓流を守ってきたオスとが次の世代を生み育てるのです。

僻地にとどまってずっと地域を見守り続ける医者はもちろん必要であろうと思います。しかし一方で、他の地域から沢山の経験を持ち帰ってくる医者もまた必要です。そうすることで、僻地には「見守る医療」と「新しい医療」との調和が生まれます。これからの課題は、僻地を「育ての場所」と思える「サクラマス医」を育て、循環させることにあると思います。かく言う私自身、もしも将来「育ての場所」に戻ることがあるとすれば、私はサクラマスのように身も心も大きくなって凱旋したい。そんな気概が今の私を突き動かしています。

―――この作品は自治医科大学公衆衛生学部門阿江竜介先生の作品で、ご本人から許可をいただき一部改変して使用させていただきました。今の私の心境に100％一致しているため掲載いたします。２年間本当にありがとうございました。

平成31年３月末をもって定年退職

所長　山科 明夫（あきお） 氏

「所長退任にあたって」

平成31年３月末に定年退職を迎え、19年間、多方面の実に多くの方々にお世話になり、金山町を去ることになりました。この年月に起こった医療を取り巻く事態を思い起こしてみます。

１．介護保険の導入

現在、地域包括ケアとして医療と介護の一体的な展開による高齢者へのサービスが展開されています。私が赴任した平成12年には、医療保険に並立する介護保険の運用が開始されました。

２．認知症患者を守る地域づくり

介護保険の導入により、主治医は対象者の記憶力、作業能力を判断する必要に迫られました。「認知症」という用語が発案され、現在定着しています。介護サービスのみならず地域社会の潜在力を掘りおこす地域力が求められ続けています。

３．医学の進歩が消化器領域の医療に大きく影響を及ぼした２つの話題

① ヘリコバクタピロリ除菌治療の保険適応。平成12年、胃十二指腸潰瘍の治療に除菌治療が保険で認められました。私が消化器医学の臨床の手ほどきを受け、地域医療に踏み出した1980年頃は、胃酸と胃粘膜防御のバランスが崩れるため胃潰瘍が発生すると考えられ、胃酸分泌抑制剤による治療が主体でした。1980年代後半になると、潰瘍病変の発生に細菌感染が関与していると語られ、1990年代に除菌治療が始まります。平成12年、消化性潰瘍による出血にて来院する患者さんが、ピロリ除菌によりピタリと再発しなくなりました。平成25年にはピロリ感染慢性胃炎にも除菌適応が広がり、町内の多くの方々が除菌治療を受けられる時代になりました。

② Ｃ型慢性肝炎の治療の変化。平成４年にインターフェロン治療に医療保険が適応され、肝炎の進行抑止、肝がん発生の減少を目指して多くの方が治療を受けました。薬効の改善されたインターフェロンに加えて、抗ウイルス効果を増強する薬剤を組み合わせる治療法が開発されました。強い副作用を警戒すべく治療施設の認定制度が一時的に設けられます。最近になり、副作用が少なく内服でウイルスを殲滅する薬剤が海外にて開発されました。高額な医薬品の使用に、国から補助金が交付され治療を受けられます。

４．ＩＴの普及が医療連携に寄与した２事項

① 当院にデジタル医用画像システムが導入されました。新システムの導入により、医用画像データを電送し、緊急性の高い症例については、迅速に読影する事も可能になりました。

② 県立新庄病院に電子カルテが導入されました。その医療情報を指定医療機関に開示するシステム「最上ネット」が発足しました。現在では、県病での検査、治療状況がほぼリアルタイムで診療所において確認できます。

５．病院から有床診療所への転換

経営問題に端を発し、改革会議、地区での町民説明会等、多くの議論を経て有床診療所に転換しました。経営問題は今なお続いています。

後任の所長を中心とする診療所全職員の健闘に期待し、町民の皆様のご健勝を祈ると共に、今後とも診療所に御支援いただきます様お願い申し上げ、退任の挨拶と致します。

ゴールデンウイークの臨時診療日

４月30日（火）	午前	担当医師は調整中
５月２日（木）		

【受付】8:30～11:30　【診察】9:00～12:00

※４月27～29日、５月１日、３～６日は休診となりますが、山形大学医学部附属病院の応援医師による急患の受付（８：30～16：00）を行っています。医師不在の時間もございますので、あらかじめ電話でご確認のうえご来所願います。

「医師による出前講座」

集会等に医師を派遣し、地域医療に関してなどの講演を行う「医師出前講座」を行っています。町立金山診療所の医師から直接お話を聞いてみたいという団体等は、気軽にお問い合わせください。

▼対象　各種団体・グループなどが主催する集会など
　　(少人数でも構いません)
▼内容　ご要望に応じて対応
▼費用　原則必要なし
▼申込　町立金山診療所総務係までご連絡ください

2011年３月	自治医科大学卒業
2011年４月～2013年３月	山形県立中央病院初期研修
2013年４月～2014年３月	酒田市立八幡病院内科
2014年４月～2015年３月	山形県立中央病院麻酔科研修
2015年４月～2016年３月	酒田市立八幡病院内科
2016年４月～2018年３月	山形県立中央病院麻酔科研修
（2017年11月～2018年１月　東京ベイ・浦安市川医療センター麻酔科）	
2018年４月～2019年３月	山形県立新庄病院麻酔科医長

専門医・認定医：日本麻酔科学会専門医、日本区域麻酔学会暫定認定医、日本周術期経食道心エコー認定医（※鶴岡市出身）

新たに須田医師が着任！

最上地域で勤務するのは新庄に続き2年目になります。専門は「麻酔科」と一般的には馴染みの薄い診療科ですが、専門分野にこだわらず総合診療を一番に貢献していきたいと考えています。

困っていることや気になることなど、小さなことでも気軽に相談していただければと思います。よろしくお願いいたします。

須田 拓郎（たくろう）　医師
（担当：外科）